

四大戦 部便り

目次

- 1 講評
- 2 試合経過
- 3 自己ベスト更新者一覧
- 4 主務から

1 講評

監督 藤田靖浩

男子は、国公立戦につづき総合優勝、また連覇、個人では、東大新記録と大会新記録がそれぞれ3種目で生まれるなど、七大戦、日本インカレに向けて非常にいい流れを作ることが出来ました。

特筆すべきは、2つ。400mHで4年宮原が51秒36で東大新、大会新、日本インカレ参加標準突破で大会MVP。マイルリレーは、小西、稲葉、兄井、宮原で3分12秒56の東大新。惜しくもインカレ標準迄0.06秒及びみせんでしたが、なんとか期限迄の標準切りを目指したいと思います。

また、5000mで1年近藤が14分36秒47の大会新、5000mWでは3年渡邊が20分38秒73の東大新を記録しました。

この他の種目でも好記録が続出しており、100mでは5番手迄10秒台と選手層の厚さも充実してきました。

七大戦は、この勢いを維持し、あとは怪我なく望めれば優勝が見えてくると思います。改めて気を引き閉めて1ヶ月練習に励んでいきたいと思いますので、引き続き応援よろしくお願いいいたします。

男子主将 藤田旭洋

昨年の優勝校として迎えた四大戦、結果はトラック・フィールドともに優勝し、昨年に引き続き総合優勝を手に入れました。国公立戦に続き四大戦でも、来年の関東インカレでライバルとなる大学に勝てたことは自信になる結果です。

今回もまた優勝を手にしたことは、記録

だけでなく勝負にこだわる姿勢というのが部全体に浸透してきた結果のように思います。勝負という面でもさる事ながら、四大戦は記録の面でも充実しており、多くのPB更新に加えて、400mH とマイルリレーで東大記録が誕生しました。400mH は全日本インカレの標準を突破し、マイルリレーも標準記録まで0.06秒に迫っており、部員一人一人が全日本インカレという舞台を身近に感じる契機になったことと思います。8月には七大戦があります。これまでの対校戦での勝利を通して、選手・応援含めチーム全員で戦うということの楽しさ、そして勝てるチームとしての矜持を得ました。七大戦では、一人でも多く全日本インカレの標準に迫る記録を出すのも勿論のこと、総合優勝を飾って全日本インカレ、そして京大戦へと弾みをつけます。

末筆ながら、四大戦にお越しになったOB・OGの皆様をはじめ、日頃ご支援を頂いておりますOB・OGの皆様におかれましては、これからも変わらぬご声援のほどよろしくお願い申し上げます。

女子主将 宮崎愛里香

女子は国公立戦に続き、各々が自分の専門種目に集中するという方針を変えずに臨みましたが、元々のエントリー数が少なく、故障による棄権もあり、総合では4位となりました。複数種目出場を強要せずに少人数で対校戦を戦う難しさはありますが、他方で自己ベストを出した選手、不調から立ち直ってきた選手もあり、個々の結果を見

る限り悲観的になる必要はないと感じております。

次の七大戦は、女子は四点制であるため、個人が自分の種目で力をつけてきた成果が発揮できると思います。少人数であっても、狙った種目で点を獲得することで上位を目指すことが可能です。また、今回はほとんどの一年生がオープン種目のみの出場でしたが、七大戦からは対校選手として出場します。下級生の活躍にもご期待いただければと思います。

七大戦、さらには秋の京大戦と女子パートも陸上部の盛り上がりにも貢献したいと思います。今後とも温かいご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。

2 試合経過

◎トラック種目

9:50 男子 4×100mR

泉(4年)-飯島(5年)-松本(3年)-藤田(4年)の走順で出場。雨が心配されていたが、試合時は止み、天候・気温ともに良好だった。県選で西村、マイルに集中した稲葉を欠き、ベストメンバーでは無かったが、最初の対校種目でありチームを勢いづける為にも、学芸に競り勝つての40秒台を目指した。

1走の泉は良いスタートをきり学芸をリードする。泉はこの後の100mOPで10秒台のベストを出しており、好調さが伺える。東大の1走といえば泉と言わんばかりの走りである。2走の飯島へ。跳躍が専門だがここ最近100mに積極的に取り組んでいる。ここで、バトンがタイミングは良かったが手元で暴れてしまい大きなロスをつくり、学芸に抜かされる。飯島が挽回の為に必死に走り3走の松本へ。バトンは少し詰まるぐらいだったが、松本がスピードに乗り切れず学芸との差が広がる。学芸にリードされたまま4走の藤田へ。藤田は関カレ後に捻挫を抱え調子が完全には戻っていないが、エースとして学芸を抜き去ることが期待された。バトンはかなり詰まってしまい、まだ本調子ではない藤田は懸命に前を追うも学芸を抜くことができず、41"45の2着でゴールした。

対校とはいえ4大学しかなく、やり辛さはあったが、来年の関カレで競う学芸に負けたことは大きい。しかし結果を出さなければならぬのは七大戦そして全カレであ

る。これらの大会で39秒台の東大記録を期待したい。

10:10 男子 3000mSC

福島(4年)、伊藤(4年)の出場。福島は壮行会では「SC=Sub Captain」ということでこれは副将(Sub captain)である自分のためのレースであると優勝を宣言した。また、伊藤も七大戦を見据え、今レースは確実に入賞したいところであった。

号砲とともに伊藤が飛び出し、鮮やかなハードリングで集団の前に行く。福島は後ろ寄りからスタートし、1周目通過時は7位であった。2周目で1人が抜け出すも3周目には1人が追いかけて先頭は2人。福島はそれを追う3位につける。一方、伊藤は1000m過ぎでペースダウンし、順位を落としてしまう。しかし、後から来た福永(2年)の存在で目が覚めたのか、息を吹き返す。伊藤の持ち味である粘り強さを発揮し、ここからロングスパートで追い上げる。ラスト1周に突入、福島は先頭と16秒差で後ろに着かれている状態の3位。水濠を超えて4位の選手に抜かれるが、それに食らいつき最後は少し前でゴール。ゴールタイムは9'47"63。伊藤は一人かわして、自己ベストとなる10'01"21の対校6位でフィニッシュ。

福島は優勝を狙っていて、崩れても9'40を目標にしていたのでこの結果は本人には不満なものかもしれない。また伊藤は自己ベストを出したものの、試合後に「10分は切らないといけない」と話していた。両選手ともに七大戦でも3000mSCの対校選手になったので、大舞台に向けて更なる進化

をしてもらいたい。



10 : 30 男子 400m

3レーンに小西(4年)、4レーンに森本(3年)の出場。小西、森本は先日行われた国公立戦でそれぞれ2位、3位につけ波に乗っており、記録の出やすいとされる今大会での好記録、そして四大戦連覇にむけ高得点が期待される。

心配された雨は降らず、天候は曇りであった。号砲がなりレースがスタート。小西は序盤から積極的な走りで他の選手との差を大きく広げていき、第4コーナーを回った時点ですでに独走態勢に入る。ホームストレートでも崩れることなく独走を維持し、2位以下と大差をつける48”07の1着でフィニッシュ。自己ベストに迫る好記録を叩き出した。一方の森本も順調なスタートを切り、3レーンの小西ら内側の選手の飛び出しに動じず冷静な走りを見せる。後半も大きく失速することなくすぐ前をいく1レーン、7レーンの選手に迫るも、惜しくも追い抜くことは出来ず49”79の6着でゴールした。

今大会初の優勝を勝ち取った400mは今大会残りの種目に向け大きく勢いをつける

レースとともに四大戦の男子総合優勝に貢献する結果となった。来たる七大戦にもエントリーしている二人の活躍に期待したい。

10 : 45 男子 1500m

西川(4年)、小南(4年)の出場。対校選手はみな持ちタイムもあまり変わらないため、レース展開が順位を左右すると予想される。西川は昨年の四大戦での1500mでも3位と好成績を残し、小南は本年度の国公立戦の800mで3位に入り、両者とも多くの得点獲得が期待された。

スタートしてまず西川が先頭に立つ。150m付近で小南が先頭に出て、以後小南が先頭、西川が2番手で続く展開となる。400m過ぎで埼玉大の選手が西川の前に出て、800mは小南がトップ、西川が3番手で通過。850m付近で西川が再び前に出て2番手に。ラスト1周となったところで3番手の埼玉大の選手がペースを上げ、西川がそれを追う。小南はややペースが上がらず3番手へ。1200m通過付近で西川が埼玉大の選手を抜かしトップへ。ラスト200mは追いかける埼玉大の選手をかわし西川が4’02”51の1位でゴール。小南は、ラスト200mで埼玉大、群馬大の選手に先行され4’06”45の5位となった。結果、獲得した対校得点は8点となり、東大の優勝に大きく貢献した。



11:15 男子 110mH

3レーンに杉森(6年)、4レーンに加来(3年)の出場。杉森は、5月の関東インカレで準決勝まで進出しており今大会でも活躍が期待される。加来は国公立戦で8位に入賞しているが、ベストな走りではなかったこともあり、今大会でさらなる飛躍が期待される。

予報では雨だった天気も持ちこたえ、良いコンディションの中スタート。まずは杉森が5、6レーンの学芸大の選手とほぼ差がないままハードルを越えていく。加来は1台目で少し先頭とは離されてしまったが、スピードは落ちない。先頭の学芸大の2人が加速していく中、杉森は3台目以降少しずつ離されてしまう。それでもハードルを引っ掛けることなく良いピッチを刻んでいく。加来も安定して跳んでいき後ろとの差を広げるが、前との差は開いてしまう。そのまま杉森が3着でゴール、次に加来が4着でゴールした。記録は杉森が15"23の3位、加来が16"07の4位であった。このときの風は+0.5mであった。

学芸大の選手が大会新記録を出しワンツーフィニッシュはされたものの、両選手の

頑張りにより7点を獲得できたことは、部全体に勢いを与えてくれた。来月の七大戦においても、現段階のランキングで杉森が7位に付けるなど非常に期待が高まる種目である。

11:30 女子 100mH

6レーンに笠村(3年)の出場。笠村は今大会が100mHとしては大学初のレースとなる。本人は壮行会で「久しぶりのハードルのレースを楽しみたい。」と語っており、リラックスした、いいレースが期待される。

男子110mHで、東京大の2人が上位に入賞した良い流れのまま、曇り空の中で4選手が一斉にスタート。5レーンの学芸大の選手が素早い飛び出しを見せるが、それに惑わされることなく、笠村も落ち着いたスタートを決める。1台目、2台目で少し浮いた感じになってしまい他の選手とは少し差が開いてしまうが、それでも焦ってハードルを引っ掛けることはなく、良いピッチでハードルを越えていく。3台目以降はスピードにも乗り、前との差はそれほど開かない。しかし9台目、10台目になると少しピッチが落ちてしまう。それでも最後まで順調に走りきり、4着でゴールした。記録は16"26で4位であった。このときの風は+0.1mであった。

この大学初レースは、笠村にとって記念すべきレースになったことであろう。100mHが種目としてある大会は少ないため、あまりレースの回数を積むことはできないかもしれないが、女子の出場種目の一つとして、来年の関東インカレに向けて期待は高まる

ばかりである。



11:40 男子 5000mW

宇野(3年)、渡邊(3年)の出場。渡邊は神奈川県選手権 5000mW で優勝しており絶好調であった。宇野も調子はまずまずであり、2人の活躍が期待された。天候は依然として湿気がかなり高く感じられるコンディションであった。

スタート直後から4人が飛び出し集団を形成する。渡邊はその中での3番手という良い位置取りに成功する。序盤、この集団は先頭が頻繁に交代する激しい展開を見せる。宇野はOP参加の選手と共に形成された第2集団の先頭に行く。そして2000m手前ごろから後続との間隔を広げ、単独で前の集団を追う。2000m通過後、先頭集団から2人の選手が離れ始め、渡邊、OP参加の平成国際大の選手のみには絞られた。更に、渡邊が先頭に立ちペースを上げる。その後ペースは一時的に落ち着いたが、3400m辺りで渡邊は僅かに遅れ始める。この時点で、対校選手の中で2番手の選手と渡邊の差はかなり大きかった。宇野は、序盤に生じた前方選手との差を埋めることができずにいた。単独という苦しい状況もあり、ペースは少

しずつ落ちていく。粘りを見せ食らいついていた渡邊だったが、3800m地点での差は5m、4000m地点では15mと、じわじわと引き離され始める。この時点でまだ脚は動いており、追いつきの余力は残っているように思われた。しかし先頭はペースを上げ続け、渡邊はペース維持に留まった。残り1周での差は10秒ほど。そのまま平成国際大の選手が先頭でゴール。

渡邊は、対校戦としては20'38"73の1位。宇野は3000mから4000mにかけて1kmあたり20秒以上ペースを落としたが、最後の1000mは大幅にスパートし22'28"52の4位だった。渡邊は着順位こそ1位だったものの、レースでは勝つことができず、心残りのある結果となった。



11:40 女子 5000mW

宮崎(4年)の出場。雨は降っていないが、雲が広がる梅雨空。1時間ほど前まではじめじめとした空気であったが、時折弱い風が吹いて快適な湿度になり、気温も高くない。記録を期待できそうなコンディションである。宮崎の他は学芸大の2選手のみで3人での争いになる。男子5000mWも同時スタートであった。

レース開始後、学芸大の2選手はそれぞれ同時スタートの男子の集団に入るほどのペースである一方、宮崎は焦らず最後方で自分のペースを刻む。1000m通過は5'18"、この時点で、2番手と120m以上の差がついている上、学芸大の2選手はそれぞれ男子の集団についていくが、宮崎はついていく集団も見当たらず、孤独なレースを強いられる。1000mから2000mは5'42"でペースは落ちたものの、動きは悪くない。2000m前後で女子一番手の選手に一周差をつけられるも動じず、自分のペースを刻む。次の1000mのラップは5'33"、その次が5'41"と、多少の変動はあるが自分のペースを維持する。ラスト1000mは声援に応え5'30"と再びペースアップし、27'47"54の3位でゴールした。なお、学芸大の2選手は大会新記録を更新した。

ついていく集団が無い中で、冷静に、懸命に、自分のペースを刻み通す姿が印象的であった。今回宮崎が見せた力強さを次のレースでも見たいものである。今後の歩みに期待したい。

12:15 男子 100m

3レーンに藤田旭(4年)、4レーンに松本(3年)の出場。曇天で湿度が高いが、風は安定していて雨もない。藤田は足首の捻挫から回復したばかりで若干の不安要素を残すものの優勝に自信を見せており、松本にも自己ベスト更新と高順位が期待された。号砲へのリアクションにはほぼ差がなく横一線でのスタート。加速を終えた時点でインレーンの学芸大と群馬大の選手などがや

や先行し、藤田らが追上げる展開に。中盤以降、藤田は伸びのある動きで先行する選手を次々ととらえ、80m付近でトップに立つと後続との差を広げ、10"89で1位。宣言通りの優勝を果たした。一方松本は動きが硬く、上位争いに食い込むことこそできなかったが、粘りをみせて後半失速する選手をとらえるなど力走。最後は埼玉大の選手との激しい競り合いを着差ありで制し、11"15で5位に入った。この時の風は追い風0.3mであった。

この結果、東大は8点を獲得するも、2位・3位に入った学芸大に9点を奪われ、種目全体としては敗れてしまった。今回はそれぞれ会心のレースとはいかなかったものの、オープン参加した選手にも好記録が見られたため、相乗効果による今後の大幅な躍進に期待ができるといえよう。



12:45 女子 100m

3レーンに笠村(3年)、7レーンに石丸(1年)の出場。懸念されていた雨に見舞われることもなく、落ち着いたコンディションの下でのレースとなった。持ちタイムからは苦戦が見込まれるものの、笠村は前回の国公立戦に続く対校選手としての出場で、自己ベストの更新を目指す。石丸は大学入学

後の初戦がこの大会であり、対校選手としての出場による緊張は予想されるが、フレッシュな走りに期待が集まる。

レースはスタートから学芸大の選手と埼玉大の選手が大きくリードする展開。石丸は上体の起き上がりが早く、序盤で出遅れてしまう。中盤以降懸命に追い上げを図ったものの、差を詰めることはできず15"10で7位。厳しい大学デビュー戦となった。一方の笠村は大きなストライドの走りで、前方との差こそ詰められなかったものの、群馬大の選手を置き去りにするなどの奮闘を見せ、自己ベストを更新する13"50で5位となった。この時の風は-0.2mであった。

種目全体の結果としては振るわなかったものの、笠村は順調に自己ベストを伸ばしており、12秒台も視野に入れるなど充実している。石丸もまだ初戦ということで、今後の伸びが十分に期待できる。現在故障中のメンバーも含め、一丸となって向上してほしい。

13:05 男子 400mH

4レーンに宮原(4年)、5レーンに兄井(2年)の出場。宮原は関東インカレ2部3位、国公立戦2位と実績を残しており、今大会においても活躍が期待される。兄井は最近ハードリングの改善を自己の課題としており、七大戦につながる走りをするとともに少しでも上の順位を狙いたいところ。

当日は気温26度、小雨がちらつく中スタートの号砲が鳴った。両者とも最初の滑り出しは順調。特に宮原はピッチ・ストライド共に申し分なく、前半からスピードにの

りトップにおどり出る。兄井もハードルを倒すことなく攻めの走りを展開し、6レーンの選手に食らいついている。ところが8台目でハードルが足に当たってしまい減速する。一方宮原は確実な走りで他の追従を許さない。結局最後まで後続との距離を広げ続けて1着でフィニッシュ。兄井は後半のハードリングの失速を取り返そうとラスト40mで怒涛の追い上げを見せるも、5着でのゴールインとなった。記録は宮原が51"36、兄井が54"56であった。

宮原は今回の記録をもって大会新記録、そして東大新記録を樹立するとともに、全日本インカレB標準を突破し、彼にとって記念すべきレースとなった。また兄井も今後の大会の通過点として収穫のあるレースとなった。また400mH全体としても8点をもぎ取り、チームの男子総合優勝に大いに貢献した。両者とも七大戦においても対校選手としてエントリーしており、さらなる活躍が期待される。



13:25 男子 800m

2レーンに早川(2年)、3レーンに軽部(3年)の出場。雨が少し降り始めていたが、朝から気温は20度前後で安定していて、比較的競技に向いた天候であった。軽部は持ち

タイムが後続を大きく離れた1位であり、早川も最近安定して1分台のタイムが出せるようになっているので、この競技では高得点が期待された。

スタート後100mでさっそく軽部が先頭に立ち、軽部はそのまま先頭で、早川は5番手で200mを通過する。400mの通過では1位集団と5位集団に完全に割れており、軽部が57秒、早川が59秒でそれぞれの集団の先頭付近をキープしながら2周目に入った。ここでややペースが上がり、早川は400m通過の直後に1つ順位を落として6番手に後退する。バックストレートでは順位の変動は無かったが、600m通過と同時にスパートをかける選手が多く、早川は7番手に後退し、軽部も後続から差を詰められた。しかし軽部はここからスパートをかけ、地力が表れた圧巻の走りを見せて1'55"87の1位でフィニッシュ。早川も残り100mで前を猛追したが、惜しくも抜かせず1'59"11の7位であった。

軽部は大会記録や自己記録の更新はできなかったものの、下馬評通りに優勝した。早川は得点こそできなかったが、着実に対校戦での経験値を増している。両者とも、七大戦では更なる活躍を期待したい。

13:40 女子 800m

今須(M1)、河原(3年)の出場。雨がぱらつき始めたが涼しく、好記録の狙えるコンディションだった。記録では学芸大の選手がとび抜けており、実質東京大と埼玉大の争いになることが予想されていた。

学芸大の選手がスタートから飛び出した

が、2番手の集団を今須が引っ張り、そのすぐ後ろに河原がつく形となった。今須は、200m地点から数人に抜かれるも、落ち着いて2番手の集団の後ろにつけて様子を窺う。河原は集団の先頭に食らいついていき、300m地点から3番手につけた。そのまま400m地点を71"で通過したが、その後ペースを落とし、苦しいレース展開となった。今須は400m通過以降、周りのペースが衰えていく中、1人ペースを落とすことなく学芸大・埼玉大の選手を抜き返し、2番手につける。しかし、残り200mでスパートをかけてきた学芸大の選手に抜かれたのちは粘れず、2'26"73の3位でのゴール。目標としていた2'25"には届かなかった。河原は少し離れて2'36"69の5位でのゴールとなった。

両者ともに、レベルの高い選手がいる中でも冷静なレース運びだった。七大戦や今後の試合での活躍に期待したい。

13:45 男子 200m

3レーンに藤田(4年)、4レーンに稲葉(4年)の出場。藤田は右足首捻挫からの復帰初戦で十分な走練が確保できていないが、万全とはいえないコンディションでも実績を残すことが期待される。稲葉は先日行われた国公立の200mでは途中棄権に終わっており、七大戦に向け弾みをつけたイリベンジマッチとなる。

小雨がちらつく中号砲が鳴りレースがスタート。両者ともに順調な滑り出しを見せるが、2レーン、5レーンを走る学芸大学の選手が積極的に飛び出し、2人は追いか

る展開となる。コーナーを回ったところで学芸大の選手2人との距離はあったものの稲葉は後半に強さを発揮し、失速し始めた2レーンの選手との差を徐々に縮めていく。しかし、惜しくも捉えることは出来ず21" 74の3着でのゴールとなった。が、自己ベストを更新する好記録であった。ホームストレートに入った藤田はすぐ前をいく稲葉を追いかけるが次第に2人との差は開いていき、終盤に入ると失速し22" 21の4着でのゴール。このとき風は追い風0.7mだった。

今大会ではベストな結果とはならなかったものの、短距離の中核を担う2人には今後も大きな注目が寄せられる。来たる七大会でも200mにエントリーしている2人の大活躍に期待したい。

14:20 男子 5000m

3レーンに近藤(1年)、4レーンに渥美(4年)の出場。持ちタイムや最近の練習から、2人での1,2位フィニッシュが期待される。雨が降り出したが走りやすい気温の中レースが始まった。

スタート直後から近藤、渥美、埼大の選手の3人が飛び出し後続を離していった。1000mを2' 50で通過とハイペースでレースは展開する。2000m付近で渥美が離れ始め、先頭争いは近藤と埼大の2人。終始近藤が埼大にぴったりとつかれる中、キロ3' 00ペースを維持して4000m付近まで状況は動かず。渥美も前後に50m以上誰もいない中でペースは落ちているが粘っていた。その後埼大が近藤から遅れ始めるが、近藤はリズ

ムを崩さない。30mほどついた差が、ラストスパートで少し詰められたように思われたが、2位と約4秒離して近藤は1位でゴール。記録は大会新となる14' 36" 47。渥美は離されたあとのペースダウンが目立ち15' 06" 82の3位でゴール。

近藤はペースを乱さずに1位を取りに行く力強い走りを見せてくれた。渥美は中盤で先頭と離れてしまい、実力を出し切れなかったが、最低限粘れていた。2人とも、この試合の反省や感覚を生かしたベストな走りが七大会で期待される。



16:05 男子 4×400mR

四大戦の最終種目となる4×400mリレーは3レーンに小西(4年)ー稲葉(4年)ー兄井(2年)ー宮原(4年)の走順で出場であった。今回の4×400mリレーでは全日本インカレのB標準である3' 12" 50を狙いベストメンバーでの出場である。この記録は大会記録かつ東大記録という非常に難しいものであるが、メンバー各々が100%の力を出せたならば決して不可能なものではない。また、総合得点ではここまで学芸大と同点の1位であり、マイルの結果で総合優勝が決まるという展開となった。非常に熱いレースが期待される。

1走小西は今大会の400mで優勝しておりマイルにおいても期待が集まる。1番内側の3レーンからスタートした小西は前半から果敢に攻める。250m地点で5レーンの埼玉大の選手を抜き去る。4レーンの群馬大、5レーンの学芸大と並んだ形でラスト100mに入る。ラストはやや失速したものの群馬大に競り勝ち1位で2走の稲葉へとバトンをつなげる。稲葉がバックストレートに入った時点で、すぐ後ろに群馬大が追走するも学芸大・埼玉大とは既に大きな差ができていた。稲葉は徐々に群馬大の選手に差を詰められラスト100mでは抜かれてしまうのかと思われた。しかし稲葉はその気迫を見せつける。粘りの走りで3走兄井に1位でつなげる。兄井は絶妙なバトンパスで群馬大学の選手より少し抜け出して走り始める。安定した走りを見せトップをキープして進んでいく。しかしラスト100mに入り少し苦しくなったか、ペースを落とし始め群馬大学の選手に抜かれてしまう。そこからなんとか粘りその差を3m程に留め4走宮原に2位でバトンをつなぐ。4走の宮原は今大会の400mHで大会新かつ東大新かつ全カレ標準切りとなる51”36で優勝しており非常に期待のかかる選手である。宮原は、前半は自分のペースでゆったりとスタートしたように見られた。スタートでは3mほどであった群馬大との差はバックストレートで最大で20m程にまでなっていた。しかしこの差も宮原の計算内であったか、200mを過ぎたあたり、宮原の怒涛の追い上げが始まる。後半200mに入っても全くペースの落

ちない宮原、群馬大との差を徐々に縮めていく。ラスト100mに入った時点でその差は10m弱ほどになっていた。ここからも宮原の猛追は終わらない。疲れを見せ始めた群馬大の選手との差はどんどん縮まっていく。ゴールのわずか2m手前、遂に宮原が前をいく群馬大学をとらえる。わずかに競り勝ち見事1位でゴールを決めた。流石、という走りであった。東大の総合優勝が決まった。

記録は3'12"56であった。大会記録、東大記録ではあるが全カレ標準にはわずか0"06届かなかった。しかしまだ標準切りのチャンスとなる試合は残っている。次の試合へつながる素晴らしいレースであった。次の記録に期待が高まる。



◎フィールド種目

○跳躍

10:30 男子 棒高跳

松下(3年)、戸部(1年)の出場。前日までの雨は止み、気温も程良い。風は微風だが風向きは不安定でやや向かい風。

戸部は3m20からの試技開始。1本目、突っ込みの時に左肘が曲がってしまい奥行きが足りずバーを落とす。2本目は1本目よりはいい突っ込みをしてなんとか成功する。続く3m40、1本目はまたも左肘が曲がり、ポールが立ち切らず失敗。2本目も似たような跳躍でバーを落とす。3本目は助走の途中でスピードが落ちるが空中動作は良くなった。しかし、やはり奥行きが足りずバーを落とす。一方、松下は4m00からの試技開始。1本目はタイミングが合わず、振り上げることができずバーを落とす。続く2本目はタイミングを合わせ、うまく振り上げることができた。しかし、奥行きが足りずバーを落としてしまう。3本目、しっかりした突っ込みでポールの反発も上手く貰えていて奥行きも十分にあった。余裕を持ってバーを越え成功したかに思われたが、ポールを突き放すことができずポールでバーを落としてしまう。

結果は戸部が3m20の3位、松下はNM。2人とも前回の国公立戦の時の記録と同じであったが良い感覚を掴んだようで、特に松下は15フィートのポールを使いこなせるようになってきた。七大戦での活躍に期待したい。

10:30 男子 走幅跳

東大からは2名の出場。今年関東インカレも経験した飯島(6年)、深澤(3年)の2人だ。両者ともに7mのジャンプを期待したいところだ。

1本目は深澤、飯島ともに本来の動きが見られず記録は6m台半ばにとどまる。観客からは「まだまだ」の声。

その声援に発破をかけられたのか、深澤の2本目。スピードに乗った助走から重心を正確にとらえた踏み切り。滞空時間の長い跳躍。記録は6m98。この時点で全体のトップに立つ。

3本目以降試合は動かず。深澤の優勝かと思われた6本目、ここまで6m台にとどまっていた飯島がついに意地を見せる。観客に手拍子を求め、集中力を極限にまで高めて45m先の踏切板を見つめる。100m10秒台のスピードに乗った跳躍。本人が今日は調子が良かったと述べていた通り、7m08の好記録で深澤からトップを奪う。そしてトップをチームメイトに目の前で奪われた深澤の6本目。力が入った助走を見せるも途中で足が攣ったのか、苦しそうな顔を浮かべる。記録は飯島には及ばず。飯島に優勝は明け渡したが堂々の2位で競技終了。

東大跳躍勢は関東インカレ以降、好成績を収め続けている。本日不在であった西村と飯島、深澤の3人は全員自己ベスト7m台を有しており、七大戦でもトップ8進出、さらには表彰台、優勝争いが期待される。今後の戦いに目が離せない。

10:30 女子 走幅跳

東大からは白形(3年)1人の出場。自己ベ

ストは 4m91。この試合で 5m 台に突入といきたい。

1 本目は 4m83。本人としてもまずまずといったところか。1 本目を終えて全体の 2 位につけた白形の 2 本目。4m86。じりじりと記録を上げていく。自己ベストが期待された 3 本目だったがこれは踏み切り板の後ろ側で踏み切ってしまう、記録は伸ばせず。前半が終了する。

4, 5 本目は踏み切りをしっかり合わせたものの、いずれも記録は伸びなかった。最終跳躍となった 6 本目。疲労が出てきたのか、板の前で減速。最終結果は 2 位で、惜しくも自己ベストは次回以降にお預けという形となった。

白形の持ち味は常にベストに近い状態で跳躍できることにある。今回も 4m86 と自己ベストに肉薄する跳躍を見せた。今後気温などのコンディションが整えば、5m ジャンプが見られる日はそう遠くはないと思われる。今後に期待したい。

12 : 30 男子 走高跳

福永 (3 年)、寶田 (2 年) の出場。弱い雨の影響もあり、走高跳にとっては多少肌寒いコンディションの中競技が開始された。福永は今シーズン苦しめられてきた腰痛が治りつつあり、好記録が期待される。寶田は今シーズンから十種競技に取り組むことを決めており、走高跳を得点源にするために自己ベストを更新したいところ。

寶田は 1m60 から跳躍を開始した。スピードに乗った助走からのダイナミックな跳躍で 1m60、1m65 はともに 1 本目でクリア。1m70

は 1 本目に失敗するものの、2 本目には上手く踏み切る事が出来、クリアした。1m75 は頂点をバーの真上に持っていく事が出来ずにバーを落としてしまい、1m70 の 5 位で競技を終了した。福永は 1m95 から跳躍を開始した。1m95、2m00 とともにゆったりとした助走から余裕を持ってクリア。続く 2m03 は 1 本目、2 本目と失敗したが、3 本目は意地の跳躍を見せ、脚をバーに当てながらもクリアした。2m06 も 2 本目にバーに脚を当てながらのクリアだったが、腰の位置は十分に上がっており、数センチの余裕があった。2m09 は越える事が出来なかったが、2m06 で 1 位。シーズン初めから続いていた不調からの復活が感じられる試合となった。

寶田はスピードのある助走の特性上、上手く踏み切れた時に大きく体が浮き、福永も自己ベストの可能性を感じさせる跳躍を見せている。七大戦では今回以上の大ジャンプに期待がかかる。



14 : 00 男子 三段跳

田中 (4 年)、吉田 (3 年) の出場。気温はあまり高くなく、途中から雨も降り出す厳しいコンディション中での競技だった。吉田は最近の対校戦 2 試合でいずれも優勝しており、今回も好成績が期待された。

田中は1本目から良い跳躍を見せるが、惜しくもファールとなる。その後はうまく波に乗り切れず13m台前半の記録が続き、後半は跳躍できない試技もあった。結局記録は13m24で、全体の5位となった。一方の吉田は、オープンで出場した走幅跳では良い記録を残せなかったものの、この種目ではしっかりと安定した跳躍を見せ、雨の中14m51の跳躍で見事に優勝を果たした。

今回はそれなりの得点を稼ぐことはできたが、三段跳の更なる活躍のためには、七大戦以降での吉田に次ぐ二番手、三番手の台頭が課題となった。七大戦一ヶ月程と時間はないが底上げを期待したい。



○投擲

10:00 男子 ハンマー投

鍵本(3年)、郡(4年)が出場。鍵本は1、3投目に回転投げ、2投目にスイング投げと投げ方を切り替えていったが前半は思うように記録がのびなかった。しかし後半の4、5、6投目は回転投げで投げ、調子が戻り始めた。安定して記録がでるようになったが、今回はそうなるのが少し遅く本調子の投げには及ばなかった。しかしそれでも6投投げ終えて結果は34m48で3位と健闘した。前半では自分の思うように投げられず記録

が伸び悩んだが、後半では本調子まではいかないものの、安定するようになり最終的にはしっかりと得点してくれた。

郡は最初から好調で、ファールも少しはあったが、基本的に安定した投げを見せてくれた。投げ方はすべて回転投げであった。6投終わっての結果は33m72で自己ベストを更新して4位。しかしベストを更新しながらも本人は「練習ではこれ以上の記録が安定して投げられていたので残念」と言っていたので、引退の時期が近づいているが、まだまだ自己ベストを更新してチームに大いに貢献してくれるであろう。

兩人ともこれはまだまだ自分の本調子ではないようであるので、次の七大戦まではあまり日数はないが、さらに記録をのぼして東大の優勝に大いに貢献してくれるだろう。

11:00 男子 砲丸投

宮野(6年)、奥村(2年)が出場。雨の予報だったが天気はなんとか持ちこたえていた。日の関東インカレ2部で7位に入賞した宮野は壮行会で関東インカレ2部8位だった埼玉大の選手に勝ちたいと語った。奇しくもその選手は棄権してしまっていたが、好記録を期待したい。奥村も関東インカレと国公立戦とで揮わない結果が続いているので、六大戦の時見せたような大記録を期待したい。

競技が始まって1投目は両者とも堅実に記録を残すが、2投目以降はなかなか記録を伸ばすことがかなわず記録が伸び悩む。3投目が終わった時点で宮野4位、奥村5位

であった。4投目以降の試技に移り、奥村はうまく砲丸に力が伝えられずここでも伸び悩み、結果は11m32で5位であった。宮野は技術を修正しようとしてうまく修正できなかったからかファールが続いてしまう。結果は11m40で4位であった。砲丸投では東大は5点を獲得した。今回も国公立戦に続き残念な結果となったが、2人とも七大会に出場するので今度こそ2人の自己ベストを更新する好記録を期待したい。



12 : 30 男子 やり投

大野(M2)と杉山(4年)の2名が出場した。今大会で得点を上げていく鍵は今季不調の杉山がどれだけベストに持っていけるか、そして大野が安定して実力を発揮できるかの2点であった。

大野は、今大会対抗出場者が6名で最初から6投投げられることを最大限利用して、はじめの4投を調整とアップにしっかり費やし、5投目6投目で記録を伸ばして54m80と十分な結果を出して1位でフィニッシュした。

杉山は、1投目からしっかり記録を狙って投げ、最初の2投は良く身体が使えて投げられていたものの、その後は疲労で肘が

下がるなどフォームも少し崩れ結局44m84の5位でフィニッシュだった。杉山は、今大会は残念ながら結果は出なかったものの、1、2投目では勢いが感じられ、七大会に期待が持てるものが見えた。

点数としては、計8点で凡その目標の点数を取ることは達成できた。今年のやり投げは、彼らだけで無くOPにおいて初出場40mを投げた八木澤(1年)など注目の選手がおり、ますます期待していきたい。



14 : 30 男子 円盤投

奥村(3年)と土井(2年)の出場。両者とも申請記録としては出場者8名中6位と7位で、5位の選手とも8位の選手ともやや離れた記録だった。

天候は雨だったが、弱い雨だったので試技にはあまり影響はなさそうだった。まずは前回の国公立戦でベストを出した土井の1投目だが、これは足がサークルから出てしまいファール。2投目は少し抑えて確実にピットに入れて記録は27m32。3投目以降は気合を入れたのか、投げ出す時に「うっ！」という声を出して投げていたが5投目まで全て右にそれてファール。6投目も足が出てしまいファール。飛距離も30mに届いていなかった。結果は27m32の7位。そして

国公立戦で同じくベストを更新した奥村の1投目は、珍しく1投目からターンをつけたが豪快に左にそれてネットに直撃。応援者から笑いを誘った。2投目は修正できたようで33m42。ベストを更新できたが関東インカレ2部のB標準には8cm及ばず。3投目以降も今までのベストは超える投げだったが、2投目ほどうまく力が伝わらず結局33m42の6位。

良いコンディションではなかったとはいえ、土井に関しては各試合でファールの数が多く、また練習では30mオーバーの投擲をコンスタントに出来ていることから、今後は試合当日に力を出し切れるようにすることが求められると思う。奥村は技術的に未熟なところが多いので改善点が分かりやすいだろう。いずれにせよ、両者とも次の対校戦である七大戦に向けてさらなる飛躍が求められるだろう。

3 自己ベスト更新者一覧

(国公立戦～四大戦)

100m

泉悠太(4) 10"87 +1.1 7/4
飯島靖成(6) 10"93 +1.1 7/4
松下周平(3) 11"39 +0.5 7/4
中村昌洋(2) 11"59 +0.3 7/4
島田一希(4) 11"89 +0.2 6/7
後藤裕瑛(2) 11"67 +0.6 7/4
長久将(2) 11"62 +0.3 7/4
渡辺敬博(1) 11"69 +0.6 7/4
萩尾公貴(2) 12"40 +1.1 7/4

200m

後藤裕瑛(2) 23"33 -0.7 7/4
飯島靖成(6) 22"10 +0.1 7/4
稲葉啓人(4) 21"74 +0.7 7/4
藤田健一(3) 22"81 +0.3 7/4
平岡侑一郎(2) 24"33 -0.7 7/4
松本大樹(3) 22"61 +0.3 7/4
長久将(2) 23"46 -0.7 7/4

110mH

寶田雅治(2) 16"17 +0.8 7/4
中島盛喜(2) 17"34 +0.8 7/4

400mH

宮原弘季(4) 51"36 7/4

800m

栗山顕多(2) 2'18"44 6/6
小山倫之(1) 2'08"57 6/21
藤原大樹(2) 2'03"87 7/4
岸康太(2) 2'05"00 7/4
小山倫之(1) 2'06"54 7/4
長谷川祐輝(1) 2'07"23 7/4
栗山顕多(2) 2'18"26 7/4

荒木玲(1) 2'37"53 7/4

1500m

近藤秀一(1) 3'54"51 6/6
富原健太(2) 4'29"82 6/6
藤原大樹(2) 4'22"47 6/20
長谷川祐輝(1) 4'28"59 6/20
高石涼香(1) 5'19"21 6/20
鈴木敦士(4) 4'13"92 7/4
佐藤駿(4) 4'26"06 7/4
梶原秀朗(2) 4'30"48 7/4
黒岩道子(1) 5'31"84 7/4
堀越美菜(1) 5'54"21 7/4

3000m

高石涼香(1) 11'31"11 7/4

3000mSC

福永亮(2) 10'07"96 7/4
伊藤嘉宏(4) 10'01"21 7/4
織原健人(3) 10'30"96 7/4

5000m

佐藤駿(4) 16'20"10 6/7
近藤秀一(1) 14'21"14 6/14
松本啓岐(2) 15'24"75 7/4
佐藤悠介(1) 16'12"64 7/4
伊東祐輝(2) 16'26"35 7/4

5000mW

渡邊成陽(3) 20'38"73 7/4
棟重賢治(2) 22'32"84 7/4

走幅跳

萩尾公貴(2) 5m79 -0.4 7/4

円盤投

奥村俊樹(3) 33m42 7/4

ハンマー投

郡健太(4) 33m72 7/4

4 主務より

4.1 応援OB・OG紹介

四大戦におきまして競技場まで応援に駆けつけて下さったOB・OGの方のご氏名をご卒業年順に報告いたします(敬称略)。

S54 中谷敬二

S58 八田秀雄

H3 小野満

H13 岡野浩行

H15 橋本武

H17 藤田靖浩

H23 近藤堯之

H23 園部竜也

H23 早川晃司

H23 渡邊拓也

H24 山田竜也

H25 岩川純也

H25 大久保翔平

H26 小野田実真

H26 張珉箕

H26 吉岡基

H27 上野隆治

H27 筒井隆徳

H27 原知明

また、国公立戦分部便りの応援OB・OG紹介におきまして、平成3年卒・小野満先輩のお名前が抜けておりました。お詫び申し上げます。

4.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

8/1(土), 2(日) 七大戦@仙台・宮城野原

8/29(土) 一橋戦@一橋

9/11(金) ~13(日) 日本インカレ@大阪・長居

10/10(土) 京大戦@駒場(予定)

10/17(土) 箱根駅伝予選会@立川

4.3 連絡先

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二

TEL : 03-5370-9370

Mail : Seiji_Saito@suntory.co.jp

学生主務：鈴木敦士

〒174-0053 東京都板橋区清水町38-1-605

Tel : 080-6943-2138

Mail : shumu@uttff.org

学生主務補：千田周平

Mail : uttf.shumuho@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.uttff.org>

※今回、部内5傑につきましては紙幅の都合上割愛させていただきます。次号にて掲載いたします。

学生主務 鈴木敦士

第40回国立四大学対校陸上競技大会

男子

2015年(平成27年)7月4日(土) 埼玉県上尾運動公園陸上競技場

審判長 渡辺 隆洋

記録主任 安藤 尚弘

種目	期日	1 位				2 位				3 位				4 位				5 位				6 位				7 位				8 位			
		氏名	所属	学年・登録	記録	氏名	所属	学年・登録	記録	氏名	所属	学年・登録	記録	氏名	所属	学年・登録	記録	氏名	所属	学年・登録	記録	氏名	所属	学年・登録	記録	氏名	所属	学年・登録	記録	氏名	所属	学年・登録	記録
100m	29日	藤田 旭洋	東京大	4 東京	+0.3 10'89	南 拓也	東学大	3 群馬	+0.3 10'98	長谷川 寛	東学大	2 長野	+0.3 11'00	北爪 啓太	群馬大	2 群馬	+0.3 11'02	松本 大樹	東京大	3 鳥取	+0.3 11'15	服部 翼	埼玉大	3 埼玉	+0.3 11'15	霜触 智紀	群馬大	群馬	+0.3 11'25	中山 勝秀	埼玉大	埼玉	+0.3 11'29
200m	29日	加藤 裕介	東学大	3 茨城	+0.7 20'99	山田 寛大	東学大	1 埼玉	+0.7 21'60	稲葉 啓人	東京大	4 東京	+0.7 21'74	藤田 旭洋	東京大	4 東京	+0.7 22'21	清野 玄太	埼玉大	3 埼玉	+0.7 22'69	飯塚 紀貴	群馬大	群馬	+0.7 23'76								
400m	29日	小西 慶治	東京大	4 滋賀	48'07	小嶋 遼世	東学大	2 東京	48'93	矢野 響	東学大	3 宮崎	49'52	石塚 紳	埼玉大	3 群馬	49'65	須藤 健	群馬大	1 群馬	49'77	森本 淳基	東京大	3 愛知	49'79	藤島 翼	埼玉大	2 埼玉	51'29	笠見 幸大	群馬大	2 群馬	56'35
800m	29日	軽部 智	東京大	3 東京	1'55'87	竹下 雅之	東学大	群馬川	1'56'75	中澤 太一	群馬大	3 群馬	1'57'01	渡辺 直人	群馬大	4 埼玉	1'57'17	高橋 洸稀	埼玉大	1 秋田	1'58'16	田端 雄樹	埼玉大	3 埼玉	1'58'70	早川 航平	東京大	2 千葉	1'59'11	大川内 明	東学大	3 佐賀	2'01'35
1500m	29日	西川 拓	東京大	3 奈良	4'02'51	秋元 皓志	埼玉大	1 栃木	4'03'16	渡辺 直人	群馬大	4 埼玉	4'03'62	奥山 雄太	埼玉大	4 静岡	4'03'82	小南 直翔	東京大	4 千葉	4'06'45	杉森 亮太	東学大	3 兵庫	4'07'38	鈴村 公輔	東学大	1 岐阜	4'09'58	永井 諒	群馬大	1 群馬	4'14'99
5000m	29日	近藤 秀一	東京大	1 静岡	大会新 14'36'47	山田 幸輝	埼玉大	3 埼玉	大会新 14'40'49	渥美 祐次郎	東京大	4 愛知	15'06'82	吉原 稔	東学大	4 東京	15'19'77	小野寺 涼	埼玉大	2 東京	15'21'03	篠田 啓貴	群馬大	2 群馬	15'31'54	谷 夏樹	群馬大	群馬	16'10'23	川口 文岳	東学大	1 群馬川	16'22'82
110mH	29日	矢田 弦	東学大	3 島根	大会新 14'29	高島 匠	東学大	4 東京	大会タイ 14'30	杉森 康平	東京大	4 奈良	15'23	加来 宗一郎	東京大	3 東京	16'07	小林 秀輔	埼玉大	2 埼玉	16'36	田村 英暉	埼玉大	福島	16'79								
400mH	29日	宮原 弘季	東京大	4 広島	大会新 51'36	坂本 景	東学大	2 東京	52'89	岩野 康平	群馬大	4 群馬	53'52	矢野 響	東学大	3 宮崎	54'29	兄井啓太郎	東京大	2 京都	54'56	田村 英暉	埼玉大	福島	56'85								
3000mSC	29日	林田 祥志	埼玉大	1 栃木	9'29'84	柘植 翔太	東学大	4 広島	9'38'22	福島 洋佑	東京大	3 東京	9'47'63	小原 成	東学大	3 大阪	9'47'66	伊藤 嘉宏	東京大	4 埼玉	10'01'21	岡井 稜	埼玉大	4 埼玉	10'04'02	大嶋 祐貴	群馬大	3 群馬	10'30'38	久慈清太郎	群馬大	2 岩手	10'41'49
5000mW	日	渡邊 成陽	東京大	3 神奈川	20'38'73	高橋 直己	東学大	2 埼玉	21'25'89	青山 福泉	東学大	1 静岡	21'26'97	宇野 文貴	東京大	3 富山	22'28'52	清水 諒	群馬大	2 群馬	28'38'75												
4×100mR	29日	東学大 40'35 1 南 拓也 大会新 2 山田 寛大 3 加藤 裕介 4 長谷川 寛				東京大 41'45 1 泉 悠太 2 飯島 靖成 3 松本 大樹 4 藤田 旭洋				群馬大 42'88 1 霜触 智紀 2 鈴木 夢人 3 澤田 尚吾 4 飯塚 紀貴																							
4×400mR	29日	東京大 3'12'56 1 小西 慶治 2 稲葉 啓人 3 兄井 啓太郎 4 宮原 弘季				群馬大 3'12'64 1 岩野 康平 2 北爪 啓太 3 須藤 健 4 鈴木 夢人				東学大 3'17'45 1 天野 祥希 2 小嶋 遼世 3 矢野 響 4 白方 浩平				埼玉大 3'17'68 1 藤島 翼 2 渡部 祐喜 3 石塚 紳 4 服部 翼																			
走高跳	29日	福永 大輔	東京大	3 神奈川	2m06	小林 秀輔	埼玉大	2 埼玉	2m03	荒谷 亘彦	東学大	3 千葉	1m90	柏倉 飛鳥	東学大	3 山形	1m90	寶田 雅治	東京大	2 愛知	1m70	久保田 友太郎	埼玉大	1 岩手	1m60	今井 貴秀	群馬大	4 群馬	1m50				
棒高跳	29日	加賀見一輝	東学大	2 長野	4m40	富田 巧哉	東学大	2 東京	3m80	戸部潤一郎	東京大	1 東京	3m20																				
走幅跳	29日	飯島 靖成	東京大	4 東京	+0.5 7m08	深澤 竜太	東京大	3 静岡	+0.5 6m98	荒谷 亘彦	東学大	3 千葉	+0.6 6m89	窪田 章吾	東学大	1 長野	+0.1 6m86	波多野光一	群馬大	1 群馬	+0.8 5m79												
三段跳	29日	吉田 侑弥	東京大	3 奈良	14m51	金子 翼	東学大	3 埼玉	0.7 14m25	小林 秀輔	埼玉大	2 埼玉	0.7 13m96	窪田 章吾	東学大	1 長野	0.1 13m69	田中 恭平	東京大	4 群馬	13m24	波多野光一	群馬大	1 群馬	-0.3 12m66								
砲丸投	29日	今 祐太	埼玉大	4 青森	大会新 15m01	須田 光	群馬大	群馬	14m33	角田 光洋	東学大	東京	11m93	宮野 涼至	東京大	6 石川	11m40	奥村 俊樹	東京大	3 神奈川	11m32	清水 大夢	群馬大	2 群馬	8m01								
円盤投	29日	須田 光	群馬大	群馬	41m58	今 祐太	埼玉大	4 青森	40m92	矢口 幸平	埼玉大	2 千葉	39m82	角田 光洋	東学大	東京	34m62	坂本 竜一	東学大	2 鳥根	34m00	奥村 俊樹	東京大	3 神奈川	33m42	土井 雅人	東京大	2 富山	27m32	清水 大夢	群馬大	2 群馬	21m31
ハンマー投	29日	角田 光洋	東学大	東京	52m01	今 祐太	埼玉大	4 青森	35m19	鍵本 直人	東京大	3 愛媛	34m48	郡 健太	東京大	4 愛媛	33m72	坂本 竜一	東学大	2 鳥根	28m49	清水 大夢	群馬大	2 群馬	16m21								
やり投	29日	大野 克太	東京大	東京	54m80	須田 光	群馬大	群馬	54m57	伊藤 諒	埼玉大	埼玉	52m47	坂本 竜一	東学大	2 鳥根	49m79	杉山 耕平	東京大	4 富山	44m84												
トラック得点	29日	東京大 84 点				東学大 80 点				埼玉大 36 点				群馬大 29 点																			
フィールド得点	29日	東京大 50 点				東学大 49 点				埼玉大 34 点				群馬大 21 点																			
総合得点	29日	東京大 134 点				東学大 129 点				埼玉大 70 点				群馬大 50 点																			

種別	トラック
----	------

合計：得点 種目	所属				
	群馬大	埼玉大	東学大	東京大	総計
100m	3	1	9	8	21
200m	1	2	11	7	21
400m	2	3	9	7	21
800m	7	3	5	6	21
1500m	4	8	1	8	21
5000m	1	7	3	10	21
110mH		3	11	7	21
400mH	4	1	8	8	21
3000mSC		7	8	6	21
5000mW	1		7	7	15
4×100mR	2		6	4	12
4×400mR	4	1	2	6	13
総計	29	36	80	84	229

種別	フィールド
----	-------

合計：得点 種目	所属				
	群馬大	埼玉大	東学大	東京大	総計
走高跳		6	7	8	21
棒高跳			7	2	9
走幅跳	2		7	11	20
三段跳	1	4	8	8	21
砲丸投	6	6	4	5	21
円盤投	6	9	5	1	21
ハンマー投	1	5	8	7	21
やり投	5	4	3	8	20
総計	21	34	49	50	154

種別	トラック
----	------

合計：得点	所属				
種目	群馬大	埼玉大	東学大	東京大	総計
100m	1	9	9	2	21
200m		6	4		10
400m	3	4	11		18
800m		4	11	6	21
1500m	3	8	10		21
3000m		9	9		18
100mH		3	6	1	10
400mH			5		5
5000mW			5	1	6
4×100mR	2	6	4		12
4×400mR					
総計	9	49	74	10	142

種別	フィールド
----	-------

合計：得点	所属			
種目	群馬大	東学大	東京大	総計
走高跳				
棒高跳	2	3		5
走幅跳		3	2	5
三段跳		3		3
砲丸投	2	4		6
円盤投				
やり投	2	4		6
総計	6	17	2	25